フィンランドの教育水準が高い秘密

外国語学部ポルトガル語学科 5 年　谷村莉佳

教育について論じるのは非常に難しいが、それでも私が教育をテーマにゼミ論文を書きたいと思った理由は 2 つある。1 つは、教育業界に就職するので、以前から強い関心を持っていた教育について再度考えてみたいと思ったからである。もう 1 つの理由は、教育こそが将来の国の発展を支える、非常に重要なものであると考えるからである。

そこで今回は、教育の水準が非常に高い国として世界中の教育関係者から注目をあびているフィンランドについて調べ、フィンランドの教育モデルから日本の教育をより良くするヒントを自分なりに見つけ出したいと思う。

フィンランドの教育には、主に 6 つの特長がある。1 つ目は、入学金を含めた全ての授業料が小学校から大学まで無料であること。2 つ目は、1 人 1 人に平等な教育であること。3 つ目は、統合学級であること。4 つ目は、地方自治体や学校、教師の権限が大きいこと。5 つ目は、教師は修士の資格が必須であること。最後に、子供の自主性を教育の基本に据えている点である。

フィンランドと日本は社会的背景など多くのことが異なるので、一概に比較することはできない。しかし、今回フィンランドの教育についてみてきて、フィンランドの教育に多くの優れた点があることは確かであると感じた。

フィンランドの教育の優れている点は、子供たちが「自分自身のために学ぶ」という教育に徹底していること、そしてそれを支援する充実した教育制度であると考える。これこそが、学力水準が高い秘訣であると考える。そして、その「自分のために学ぶ」という教育に集中できる背景には、平等の機会の保障、競争のない社会、社会福祉の充実が根底にあると思う。平等の機会の保障、競争のない社会というのは、日本に欠けていて、必要な部分であると思う。競争がなく、機会が平等に保障されている社会であったら、教育の目的は大きく変わってくるのではないか。しかし、現在の日本の教育を競争抜きで考えることはもはや難しいのが現状である。テストや偏差値で他人と競争したり、比較されることがなく、子供は勉強できるのか疑問な位である。

私達日本人は、もう一度学ぶことの意味や目的を問い直す必要があると感じる。まずは、制度や法律抜きに、「学ぶことは自分のためである」という意識を持たせること、自分が何のために学ぶのかという目的意識を持つことを子供たちにもう一度きちんと教える必要があると思う。

【主要参考文献】

福田誠治『競争やめたら学力世界一』（朝日新聞社）2006 年
福田誠治『競争しても学力行き止まり』（朝日新聞社）2007 年
庄井良信、中嶋博『フィンランドに学ぶ教育と学力』（明石書店）2005 年